

### ■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。  
※2 TOPIX(参考)の設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。  
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

### ■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		(参考指数) TOPIX		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	15,689	-	1,464.03	-	-
過去1ヵ月	15,358	2.16	1,403.04	4.35	-2.19
過去3ヵ月	19,192	-18.25	1,684.44	-13.09	-5.17
過去6ヵ月	19,457	-19.36	1,667.01	-12.18	-7.19
過去1年	18,664	-15.94	1,617.93	-9.51	-6.43
過去3年	17,682	-11.27	1,531.80	-4.42	-6.84
設定日来	10,000	56.89	1,271.15	15.17	41.72

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。  
※2 当ファンドはベンチマークを設定していませんが、参考指数としてTOPIXを掲載しています。  
※3 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

### ■ 運用資産構成比率

ファンド	比率(%)
国内株式現物	96.1
東証1部	95.4
東証2部	-
ジャスダック	-
その他	0.7
国内株式先物	-
短期資産等	3.9
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。  
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

### ■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2020/04/10	50
2020/01/10	50
2019/10/10	50
2019/07/10	50
2019/04/10	50
2019/01/10	50
設定来合計	7,410

※1 万口当たりの実績です。

### ■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	7,803	7,639	+164
純資産総額 (百万円)	889	874	+14

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

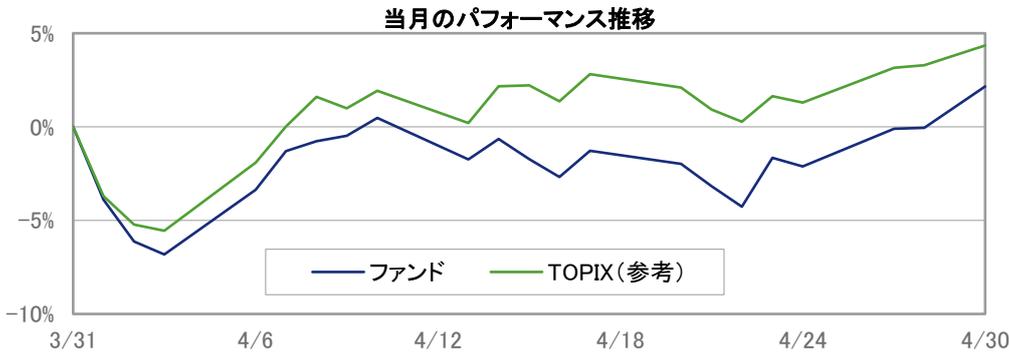
	基準価額 (円)	日付
設定来高値	12,920	2015年6月1日
設定来安値	5,630	2008年10月27日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。  
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数ある場合には、その初日を表示しております。

### ■ 運用概況

当月末の基準価額(月中分配金込み)は、7,803円(前月比+164円)となりました。  
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+2.16%となり、参考指数のTOPIXの月間騰落率は+4.35%となりました。

■ 4月の市場動向と運用状況



＜ご参考＞予想配当利回り

ファンド	TOPIX(参考)
4.89%	2.78%

※ 上記の予想配当利回りは、個別の銘柄の予想配当利回りを、保有資産のウェイトで加重平均したものです。(各種データを基に当社が作成)

※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

市場動向

4月の日本株式市場は上昇しました。上旬は、国内で新型コロナウイルスの感染拡大が拡がる中で、東京での都市封鎖(ロックダウン)の可能性が市場で取り沙汰されるとともに、ヒト・モノ・カネの動きが一段と停滞する懸念が投資家心理を冷やし、日本株式は下落しました。しかし、その後緊急事態宣言の発令が確実視されると、感染者増加の歯止め期待や当面の悪材料出尽くし感が強まり、株価は急速に下げ幅を取り戻す形で上昇しました。中旬から下旬にかけては、米原油先物価格が史上初のマイナスを記録する等、实体经济の急速な悪化が改めて意識され下落する場面もありましたが、感染拡大ペースの鈍化を背景に、欧米で経済活動の再開が検討・開始され始めると、リスクオン姿勢の強まりからグローバル株式は堅調に推移し、月末のTOPIXは1,464.03ポイントとなりました。業種別では、米欧の経済活動再開への期待感を背景に、海運業や電気機器、機械といったグローバル景気の動向を受けやすい業種が上昇した一方、外出自粛や世界的な渡航制限による業績悪化が嫌気された空運業や、感染拡大による業績への影響が限定的なことから株価が堅調に推移していた電気・ガス業や食料品といった業種が下落しました。鉱業がトップパフォーマーとなり、以下、海運業、サービス業、電気機器、機械が続きました。一方、空運業がワーストパフォーマーとなり、以下、電気・ガス業、パルプ・紙、食料品、陸運業が続きました。

運用状況

月間の運用実績は、参考指数であるTOPIXの騰落率+4.35%に対して、当ファンドは+2.16%となり、TOPIXを下回るパフォーマンスとなりました。株式の組入比率は96.1%(月末)と高位な組み入れを継続しました。また、ファンドで保有している銘柄の予想平均配当利回りは4.9%で、TOPIXの2.8%と比べて高い水準としています。

参考指数であるTOPIXとのパフォーマンス比較では、SBIホールディングス(証券、商品先物取引業)やKHネオケム(化学)、アイシン精機(輸送用機器)などの銘柄を保有していたことや、花王(化学)や京セラ(電気機器)などの銘柄を保有していなかったことが、主なプラス要因となりました。一方で、伊藤忠商事(卸売業)や日本電信電話(情報・通信業)、三菱ケミカルホールディングス(化学)などの銘柄を保有していたことや、ソフトバンクグループ(情報・通信業)などの銘柄を保有していなかったことが、主なマイナス要因となりました。業種の観点では、陸運業の銘柄を保有していなかったことなどがプラス寄与となりましたが、一方で、電気機器の銘柄を少なく保有していたことなどはマイナス寄与となりました。

■ 今後の市場見通しと運用方針

市場見通し

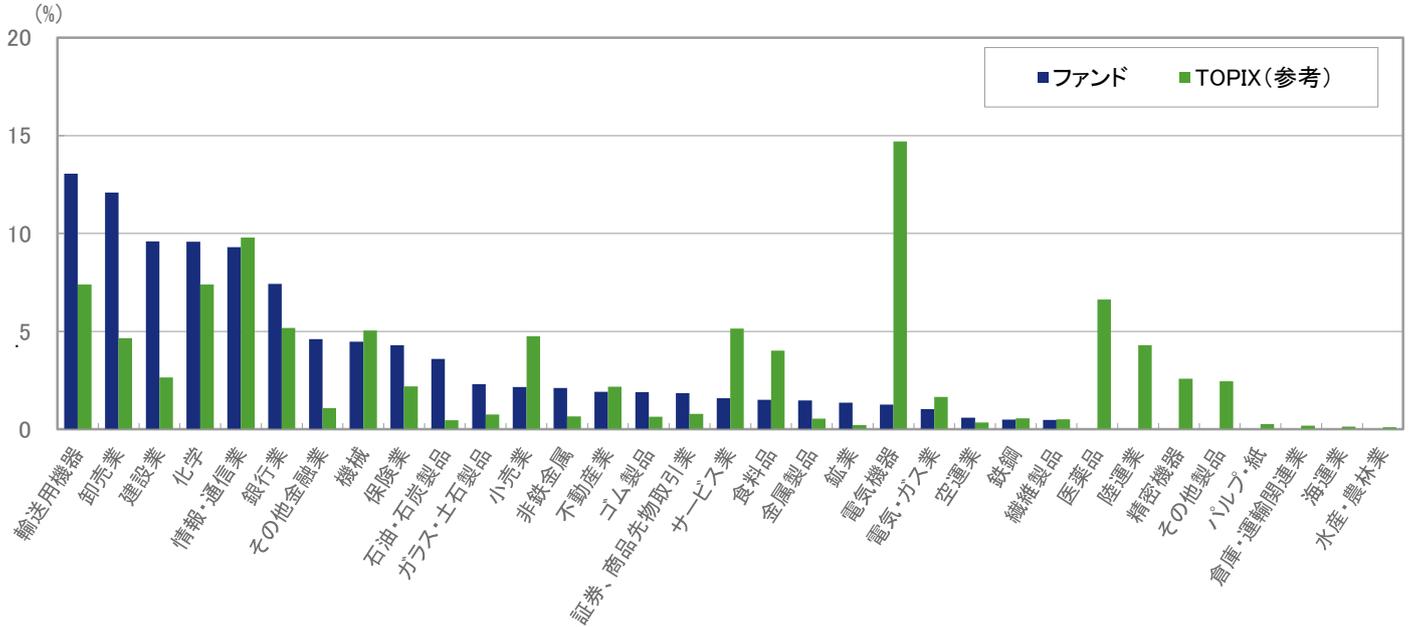
日本株について、日本企業は今年度(2021年3月期)の大幅な減益が避けられないものの、市場予想の修正はこれからであり12ヶ月先予想PER(株価収益率)の水準は参考として不十分であると考えます。株式市場は反発基調にあるものの、实体经济への悪影響を鑑みれば反発局面は終了に近いと考えます。一連の政策対応により市場心理の最悪期は脱しているものの、当面は实体经济の深刻化を反映する形で、上値の重い展開を想定します。

運用方針

当ファンドについては、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とし、予想配当利回りが高いと判断される銘柄を中心に、株価の割安度等に注目して投資銘柄を選定します。具体的には、予想配当利回りが高いと判断される銘柄の中で、減配リスクが低く、増配余力が高い銘柄を選択します。同時に、企業の収益力、資産価値に着目したバリュエーションで割安な銘柄を選択します。また、個別銘柄の時価総額・流動性等を勘案したウェイトによりポートフォリオを構築し、適宜リバランスを行うことで、パフォーマンスの向上を目指します。

※運用担当者のコメントは4月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

■ 業種別組入比率



※1 業種分類は東証33分類に基づいています。  
※2 比率は国内株式現物対比です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率 (%)	予想配当利回り (%)
1	伊藤忠商事	卸売業	3.3	4.1
2	日本電信電話	情報・通信業	3.1	3.9
3	トヨタ自動車	輸送用機器	2.9	3.3
4	KDDI	情報・通信業	2.6	3.7
5	本田技研工業	輸送用機器	2.3	4.2
6	三菱商事	卸売業	2.2	5.8
7	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.9	5.8
8	NTTドコモ	情報・通信業	1.8	4.0
9	大成建設	建設業	1.7	3.9
10	MS&ADインシュアランスグループホールディングス	保険業	1.7	4.8

※比率は国内株式現物対比です。

組入銘柄総数:

99銘柄

■ 組入上位10業種

業種	比率 (%)
輸送用機器	13.1
卸売業	12.1
建設業	9.6
化学	9.6
情報・通信業	9.3
銀行業	7.4
その他金融業	4.6
機械	4.5
保険業	4.3
石油・石炭製品	3.6
その他	22.0

■ 主な売買銘柄

	買付				売付			
	銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
1	ミクシィ	(株) 3,500	(千円) 6,167	1,762	トヨタ自動車	(株) 1,300	(千円) 8,493	6,533
2					NTTドコモ	100	328	3,278
3					KDDI	100	311	3,108
4					三井住友フィナンシャルグループ	100	282	2,819
5					日本電信電話	100	257	2,565
6					出光興産	100	250	2,503
7					本田技研工業	100	238	2,380
8					キャノン	100	229	2,288
9					三菱商事	100	220	2,199
10					伊藤忠商事	100	212	2,121

※平均単価=金額÷株数

## 商品の特色

- 当ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄を中心に投資を行います。
- 運用にあたっては、国内の株式を主要投資対象とし、配当利回りに着目した銘柄選定により、安定した配当収入の確保および株価の値上がり益の獲得を目指します。
- 原則として、年4回の分配を目指します。
- 株式の組入比率は原則として高位を保ちますので、基準価額は大きく変動することがあります。

## ■ お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなる場合があります。
信託期間	無期限(設定日:2008年3月3日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	1月、4月、7月、10月の各10日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては税引き後、無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	年2回(1月、7月)及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

## ■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号  
一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)  
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- 受託会社 : 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)  
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

- 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社  
ホームページ: <https://www.ja-asset.co.jp/>  
フリーダイヤル: 0120-439-244(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

## 主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

### ■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主にわが国の株式を投資対象としますので、国内株式の下落による組入株式の価格の下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」です。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

### ■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に0.30%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年1.056%(税抜0.96%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。 ※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

## 留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- 東証株価指数(TOPIX)に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。